

## シンプルは複雑に優る

Le Corbusier（ル・コルビジエ）や槇文彦など、今でも評価される建築家の設計した建物は、洋の東西を問わず実にシンプルなものが多い。James Dysonの個性的でシンプルなデザインの掃除機や扇風機は、日本でも人気である。Steve Jobsが徹底的に無駄を削ぎ落としたiPhoneのデザインは、凛として美しい。多くの人がその機能的で洗練されたデザインに共感し、国や民族を問わず人気である。これらに共通するのは「シンプル」。

そこで、工学のデザインにおける“シンプルであることの意味”を考えてみたい。シンプルなデザインの強みには、「わかりやすい」、「使いやすい」、「壊れにくい」のほか「直しやすい」が挙げられる。しかし、“シンプルは最も難しいデザイン”ともいわれる。それは、機能や構造を整理し尽くした結果でもある。したがって、シンプルなデザインは簡単にはつくりえない。足すより削る方がはるかに難しい。

日本文化も、禅、茶、生け花、畳の和室、石庭のように、西洋や中華、イスラム世界と比べて元々シンプルなデザインが特徴である。無駄を削ぎ落とし、徹底的にシンプルにすることが“禅の美学”ともいわれる。

しかし、日本の電化製品のなんと多機能で複雑なこと。外国人から、これを使う日本人は皆天才か？といわれたことがある。研究室のビデオデッキも多機能すぎて“研究者”の皆が未だにスムーズに使えない。公共空間を見ると、広場や道路、道の駅には多くのサインや本体以外の付帯施設が多く、複雑でわかりにくいことも多い。

これらは“無いよりあった方が良い”という付加的なデザイン思想であり、それは設計者の迷いの証拠かもしれない（万が一の時の責任回避？）。Jobsが目指した削ぎ落とされたデザインとマニュアルのいらぬわかりやすい操作性とは逆である。ちなみに、Jobsが禅を学んでいたことは有名である。

“日本人は複雑さよりも簡素で単純なものに価値を見いだす”といわれる。日本人の禅の精神を受け継ぎ、“迷ったら付けない勇気”と“それを可能とする技術”を手に入れたい。

工学におけるデザインが目指すべきは、「シンプルは複雑に優る！」なのである。

（地域景観チーム上席研究員 松田 泰明）

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。